

夕刊

読賣新聞

8月30日 木曜日

2001年(平成13年)

発行所
読売新聞大阪本社
大阪市北区野崎町5-9
郵便番号 530-8551
電話(06)6361-1111

THE YOMIURI SHIMBUN

EVENING EDITION (日刊) 第17479号 ©読売新聞大阪本社 2001年

相方はパソコン

「そんなアホな」「キミと

はやつとられんわ」。パソコン

画面の仮面に話しかけると、

ハツツコミを大阪弁で返して

返して来る。こんな漫才のコン

ピューターグラフィックス

(CG)システムを、AT

知能映像通信研究所(京都府

精華町)の土佐尚子客員研

員と、お笑いの吉本興業が共

同で作った。名付けて「イン

タラクティブ(双方向性)漫

才」。近未来の名コンビ、相

方はコンピューター? 「ほ

んまかいな」

漫才CGシステム

人間「今年は暑いねえ」

CG「ほんま暑いねえ」

人間八月でこれやから

十二月は想像できんほど暑

いんやろつねえ」

CG「なんでやねん、そ

んなわけないやろ」

というふうな、しゃべ

りが続く。ネタの内容や声

の抑揚などから、コンピ

ューターは喜び、驚きなど九

種類の感情パターンを選

び「つらいなあ」「そろえ

なんでやねん

えらいこっちゃ



京都の女性研究員と吉本興業開発

元を緩めたり、感情に合わせ表情が変化する。声は、若手人気漫才コンビ「シクタンク」のタンクが引き受けた。吉本興業はこのシステムと土佐さんの舞台デビューも検討中。

吉本の竹中功・チーフプロデューサーは「作動してくれないパソコンに『そんなアホな』と、つつこむことはよくあるでしょ。それを逆に、つつこんでもらおうとの試み」と面白がる。

土佐さんは「ブロードバンドを使えば、インターネットを通じ家庭でも漫才ができる。売れるネタです。これ、ほんま」と話している。

土佐さんがボケると「コミ返すCGの仮面本デビューも近い?」

「えらいこっちゃで」と、五十通りのツツコミを入れる。

メディアアーティストの肩書を持つ土佐さんは、意味と感情を認識する人工知能を研究。CG漫才のアイデアを練っていたところ、関心を持った関係者が間を取り持ち、吉本興業とのコンビが実現した。

ギリシャ旅行で気になった仮面劇の神の面をCGにした。目を見開いたり、口

50通りの「ツツ」

吉ツ